

潜在危険性

火災・爆発

- ・ 火災に巻き込まれると、燃焼を加速する。
- ・ 加熱されたり火災に巻き込まれると、爆発的に分解するおそれがあるものがある。
- ・ 加熱されたり、不純物が混入すると、爆発するおそれがある。
- ・ 炭化水素（燃料）と爆発的に反応するものがある。
- ・ 可燃物（木、紙、油、布等）を発火させるおそれがある。
- ・ 加熱すると容器が爆発するおそれがある。
- ・ 漏洩すると火災・爆発の危険がある。

健康

- ・ 蒸気、又は物質の吸入、摂取、接触（皮膚、眼）により、凍傷、炎症、死に至るおそれがある。
- ・ 火災によって刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- ・ 消火水や希釈水は汚染を引き起こすおそれがある。

公共の安全

- ・ **まず、送り状記載の応急措置照会先に電話する。送り状がない場合や応答がない場合、関連機関のデータベース等に照会する。**
- ・ 直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- ・ 関係者以外は近づけない。
- ・ 風上に留まる。
- ・ 低地から離れる。
- ・ 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

保護具

- ・ 空気呼吸器（SCBA）を着用する。
- ・ 防火服は限られた防護をすぎない。

避難

漏洩時

- ・ 風下に適切な避難距離をとる。

火災時

- ・ タンク、貨車あるいはタンク車が火災に巻き込まれた場合は、すべての方向に、適切な隔離距離と適切な初期避難距離をとる。

緊急時の措置

火災時

小火災

- ・ 水のみを用いる。粉末消火剤や泡消火剤を用いてはいけない。
- ・ 二酸化炭素、ハロン（R）は限られた効果しかない。

大火災

- ・ 火災区域に適度の距離から大量の水を散水する。
- ・ 危険でなければ、容器を火災区域から移動する。
- ・ 積荷が熱にさらされているとき、その積荷あるいは車輛は移動しない。
- ・ 可能な限り速くから、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
- ・ 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- ・ 火災に巻き込まれたタンクから常に離れる。
- ・ 大火災の場合は無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する；これが不可能な場合にはその場所から避難し、燃焼させておく。

漏洩時

- ・ 可燃物（木、紙、油等）は漏洩物から隔離する。
- ・ 適切な保護衣を着用していないときは破損した容器や漏洩物に触れてはいけない。
- ・ 危険でなければ漏れを止める。
- ・ 容器内に水を入れない。

少量の乾燥したもれ

- ・ 漏洩物は清浄なシャベルを用いて、清浄な乾燥した容器に入れ、ゆるく覆いをして漏洩場所から移動する。

少量の液体のもれ

- ・ パーミキュライト、砂あるいは土のような不燃材料に吸収させ、容器に入れて後で廃棄する。

大量のもれ

- ・ 液体の漏洩物は前方にせきを作り、後で廃棄する。
- ・ 漏洩物を回収し、あとを大量の水を用いて洗い流す。

応急手当

- ・ 被災者を新鮮な空気のある場所に移す。
- ・ 呼吸が停止している時は人工呼吸を行う。
- ・ 呼吸困難の時は酸素吸入を行う。
- ・ 汚染された衣服や靴を脱がせ、隔離する。
- ・ 漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは目を最低15 [20] 分間洗浄する。
- ・ 被災者を温め、安静にする。
- ・ 医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。
- ・ 救急車を呼ぶ。